

地元の人々の尽力で修景整備された野路町の史跡「萩の玉川」。あずまやと石碑が設置され、住民の憩いの場となっている。

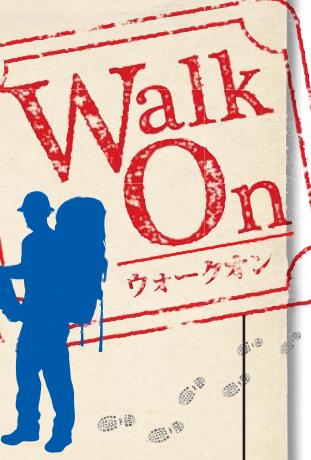
JR南草津駅の南に位置する野路は、中世に東山道の宿駅として栄えた所で、この集落の南のはずれに、歌枕に使用される「六玉川」のひとつに数えられた野路の玉川、通称「萩の玉川」があった。

十禅寺川の伏流水から玉のよう美しい水が湧き出たという故事来歴による名所で、その清流のほとりには萩の花が咲き乱れていたとか。

平安室町時代には文人墨客が詩歌に興じ、江戸時代には浮世絵や名所図会にも描かれたほど。とくに「千載和歌集」所収の「あすもこむ／野路の玉川／萩こえて／色なる浪（波）に／月やどりけり」

（源俊頼）の歌は有名だ。

場所は十禅寺川と旧東海道が交わるあたりだろうか。



野路

伝説と歴史の舞台を歩く

DATA 草津市
●歩行距離▶約2.5km
●歩行時間▶約50分

名所「萩の玉川」を訪ねて旧東海道を散策

JR南草津駅の南に位置する野路は、中世に東山道の宿駅として栄えた所で、この集落の南のはずれに、歌枕に使用される「六玉川」のひとつに数えられた野路の玉川、通称「萩の玉川」があつた。

十禅寺川の伏流水から玉のよう美しい水が湧き出たという故事来歴による名所で、その清流のほとりには萩の花が咲き乱れていたとか。

平安室町時代には文人墨客が詩歌に興じ、江戸時代には浮世絵や名所図会にも描かれたほど。とくに「千載和歌集」所収の「あすもこむ／野路の玉川／萩こえて／色なる浪（波）に／月やどりけり」

（源俊頼）の歌は有名だ。

場所は十禅寺川と旧東海道が交わるあたりだろうか。

近年になって水は涸れてしまい、かつて旅人の心を癒やした風景は一変。現在では地元住民の手で史跡として修景整備され、往時の面影を後世に伝えている。

国道1号と並行する旧東海道の散策を楽しみながら、史跡までアプローチするのもいいだろう。かがやき通り（野路町交差点付近）から旧東

海道に入ると、住宅の敷地内に壇ノ浦合戦で敗れた平家ゆかりの清宗塚があり、国の重要文化財に指定された本殿をもつ新宮神社など、歴史的な寺社が少なくない。古の玉川」を訪ねてみよう。

JR南草津駅の東側、かがやき通りの角地に「野路玉川古跡」の陶板プレートがあり、説明文とともに歌川広重の浮世絵「諸国六玉川・近江野路」が焼き付けられている。ここに描かれている人物は源俊頼とその従者と思われ、俊頼が詠んだ歌が記されている。



歌川広重画「諸国六玉川・近江野路」(丸久版)



バックナンバーをKEIBUNホームページ
「湖国滋賀ウォーキングマップ」で公開中！

<http://www.keibun.co.jp>



“Walk on”とは

「歩き続ける」という意味の他に、舞台をちょっと歩くだけの通行人のような「端役」の意味があります。多彩な伝説や物語をもつ歴史豊かな“近江”という舞台を、登場人物のひとりになった気分で歩いてみてはいかがでしょう。